ふれあいネットワーク

令和６年７月1日発行（毎月1日発行）

福祉にいがた

Fukushi Niigata

2024
第863号 7月号

CONTENTS

巻頭特集 ITで「新しい福祉の形」へ―柏崎（2～4面）

● 福祉の現場―キャリア官僚辞めフードバンクに

● 県社協、令和5年度事業報告

絵「ルージュバック」 作・久保田 学（聖籠町）

〈作者一言〉赤色の背景に咲くチューリップやハマヒルガオ

バックナンバーこちらから

社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会 https://www.fukushiniigata.or.jp

巻頭特集

IT で「新しい福祉の形」へ

多機能型福祉事業所「GRANBASE（グランベース）」

運営：MAZAQ株式会社　柏崎市松波2丁目3ノ29
☎0257（47）7005　Eメール info@mazaq.jp

柏崎市のIT企業が昨年9月、同市松波2に設立した多機能型福祉支援施設「GRANBASE（グランベース）」は就労継続支援A型・B型事業所を中心に「地域活動支援センターⅢ型」「障がい児専用放課後クラブ」など、複合的な福祉サービス提供を充実させつつある。IT企業がなぜ福祉に進出したのか、Webサイトでうたう「IT企業×福祉＝新しい福祉の形」とは何か、どんな作業をするのか、難病の娘を思って夫婦で始めた福祉事業とは？　興味にかられ取材した。

「GRANBASE」のエントランス。茶系のおしゃれな雰囲気で広い造りが自慢。休憩や面談もできる

就労継続支援A型・B型

HP、動画など制作 アクセサリー検品

福祉の拠点 訪ねて

医院と院長宅だった建物を購入し改装した「GRANBASE」。正面から入ると、茶系の内装でまとめた広いエントランスはおしゃれな雰囲気。支援しやすいように、屋内は所々に医院の設備を残しながらも、きれいに改装されている。

作業室の一角では、利用者とスタッフが、商品となるアクセサリーの検品、包装の真っ最中だった。

雇用契約を結んで賃金をもらう就労継続支援A型と、雇用契約を結ばずに工賃をもらうB型の利用者は合わせて現在11人。20代が中心で若さが際立つ。うち、1人は在宅でパソコンの業務に携わる。大半が精神障害で、あとは発達障害や身体障害という。

GRANBASEの運営は、2022年2月に発足したMAZAQ（マザック）株式会社。小竹（おだけ）真弓さんと夫の康裕さんの2人代表制で、ともに代表取締役だ。

夫妻は20年以上、株式会社juraice（ジュライス）を経営。デザインしたアクセサリーを国外の企業に製造させて輸入しネット販売する一方、ホームページ（HP）や動画制作などのIT関連業務も手掛けてきた。

juraiceが子会社MAZAQにネット販売やIT関連の業務を委託。GRANBASEの就労継続支援A型・B型の利用者らが作業する仕組みだ。

GRANBASEが取り組む事業は「IT」「通販・製造・卸」「工業」「飲食」の4つ。

IT事業はHP制作やWebサイトの運営、マーケティングなど。通販・製造・卸事業はアパレル関係の販売や輸入植物の販売など。工業事業はレーザーを使いアクセサリーへの刻印、電線などの銅線はく離、リユース関連など。飲食事業は惣菜やスイーツの販売、キッチンカー運営など。

福祉、娘の難病きっかけ

ミトコンドリア病 7歳診断、現在高1

願い通じたか 延命に希望も

おしゃれで先端的 就労の場作ろう

施設の前に立つ小竹真弓さんと康裕さん。左側の建物にはエントランスがあり、その裏側と右手の建物が作業室など

業務内容は幅広く「時間や手間がかかる作業や機械化できない作業を利用者が担当する」という。

「就労継続支援」のほか、4月中旬から「地域活動支援センターⅢ型」もスタート。現在、5人が通う。

「Ⅲ型」は利用者が創作や生産の活動のために通う場とされる。康裕さんは「外へ出づらい人も気軽に通える施設とするため、障害者手帳なしでも利用できるよう、市から取り計らってもらった」と話す。

このほか、今後は障害児を一時的に預かる「障がい児専用放課後クラブ」や、障害や引きこもりの「相談サポート」などの充実を図ってゆく方針だ。

IT企業経営の経験が長い夫妻が、福祉へ事業拡大したのは長女（15）＝県立特別支援学校高等部1年＝の難病がきっかけ。

7歳の時、頭痛やけいれんなど、脳卒中に似た症状に見舞われ、病院で難病の「ミトコンドリア病」と診断された。

この病気は、体の細胞内に存在する小器官ミトコンドリアの異常でエネルギーが作り出せなくなり、体のあちこちに異常を引き起こす。「活動を制限しないと発作が起き、病状が悪化してしまう」と真弓さん。患者数が少なく「希少難病」とされ、治療法はなく対症療法だけという。

その難病の中で、脳卒中に似た症候の副作用が特徴の「MELAS（メラス）」と確定診断されたという。

ショックだったのは「発症後の余命が8年ほどのこともあると聞かされた」ことだったという。しかし、両親の祈りが通じたのか、娘は成長。発病8年後の15歳を越えた。『もしかして、もっと長く生きられるかも』と希望を持てるようになった」と康裕さん。

（↖4ページへ続く）

【ミトコンドリア病】 ミトコンドリアは生物の細胞に存在する細胞小器官でエネルギーのもとを作り出す。ミトコンドリアに異常が発生するとエネルギーのもとを作り出せなくなる。ミトコンドリア病を発症すると、脳や心筋、骨格筋で重篤な異常・障害が起こりやすくなる。

2009年11月に難病指定。発症者が少ない難病のため「希少難病」とも呼ばれる。根治療法はなく対症療法だけ。

【MELAS（メラス）】 ミトコンドリア病に4つある代表的病型の1つが「ミトコンドリア脳筋症・乳酸アシドーシス・脳卒中様発作症候群」。英文略語で「MELAS」と呼ばれる。

主な症状として、けいれんや意識障害、運動麻痺などの「脳卒中様症状」のほか、頭痛、嘔吐など、さらには筋力低下や低身長なども見られる。

（Webサイト「難病情報センター」、ウィキペディアなど参照）

康裕さん 障害者だからと諦めない社会に 当事者を優しくサポートしたい 真弓さん

（↙3ページから続く）

「そうなると『高校卒業後にどこで働くのか』と、就労先が気になった。若い女性が働きたくなる、おしゃれできれいな職場はないか、ないなら自分たち夫婦で作り出そうと、福祉事業進出を決めた」

そのコンセプト実現のため、事業所「GRANBASE」はおしゃれな内装を心掛けた。

取り扱う作業は「アクセサリー」「アパレル」「スイーツ」などの包装や検品、パソコンでの動画編集やWebページ制作などをそろえる。

通う場としてのⅢ型、さらにB型・A型が1カ所にあるため、場合によって利用者はⅢ型から始め、慣れるに従い、B型・A型、さらには会社jurai ceへの就職を目指すこともできるという。

「逆に、体調などによってB型、Ⅲ型に戻ることもできる。1カ所だから、辞める必要がない」

康裕さんと真弓さんはそれぞれ「障害者だからといって諦めることがない社会づくりに貢献したい」「当事者を優しくサポートする施設でありたい」と、今後へ思いを抱く。

難病の娘を思い、夫婦で始めた「福祉の新しい形」が今、注目されている。

アクセサリーの検品作業。写っているのはスタッフ

GRAN BASE
ホームページ
こちらから

ず～む 2024 Vol.74

発する言葉

どう伝わるか考えたい

ある日のバスでのこと、車内は立つ乗客もいる程度の混み具合でした。とある停留所では車いすの客がバスを待っており、運転手は停留所でバスを停めるとすぐ、車いす乗降用スロープの用意を始めました。さらに「すみませーん」と乗客に声をかけながら移動をお願いした後、車いすを所定の位置へ誘導。運転手は「皆様、すみませんでした、ありがとうございました」と運転席へ戻りました。

一見、丁寧に見えた対応に少しだけ違和感を持ったのは私だけでしょうか？「すみませんって何を謝っているの？」と心の中で引っかかったのです。運転手は協力してくれた乗客たちに「ご協力、恐れ入りました」と、謝意を伝えたかったのでしょう。

でも、もし皆さんがあの車いすの人だったら「私、何か悪いことをしたの」と思うことは全くないでしょうか？

「すみません」と謝られ続けると、他の乗客に迷惑をかけたのだという罪悪感も湧きそうです（実は私も「すみません」をよく使うタイプで、自分のことは棚に上げてしまって、ごめんなさい）。

何気なく発した言葉が誰をどのような気持ちにさせるのか？　自分の意図したとおりに伝わっているのか？　もっとポジティブな表現はないのか？　それを瞬時に判断するのは容易ではありませんが、発する言葉について考える心掛けは大事だなと、改めて思った一幕でした。

（実央）

令和６年度

https://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険　検索

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が５類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して２つのプランとします。

保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

保険金の種類 ＼ プラン			基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円（限度額）	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
	特定感染症		補償開始日から補償(*)	
	地震・噴火・津波による死傷		×	○
賠償責任の補償	賠償責任保険金（対人・対物共通）		5億円（限度額）	
年間保険料			350円	500円

＊特定感染症についても10日間の免責期間がなくなり、補償開始日から補償対象となります。
なお、令和５年５月８日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

商品パンフレットはコチラから

（ふくしの保険ホームページ）

＜重 要＞

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 中途でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お１人につきいずれかのプラン１口のみとなります。

ボランティア行事用保険（傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険）

送迎サービス補償（傷害保険）

福祉サービス総合補償（傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険（オプション））

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者　社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事保険会社〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03（3349）5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、年末年始を除きます。）
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店　株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03（3581）4667
受付時間：平日の 9:30～17:30（土日・祝日、年末年始を除きます。）

〈SJ23-11315より抜粋〉

新潟県社会福祉協議会　令和５年度事業実施報告書概要版

1　新潟県社会福祉協議会活動指針の推進

新潟県社会福祉協議会の基本理念や基本方針実現のため、令和３～５年度を計画期間とする活動指針に定める次の４事業を重点的かつ計画的に実施した。

⑴　地域共生社会実現に向けた基盤構築の推進

地域共生社会実現に向けた地域福祉活動の取り組み推進を図るため、市町村社会福祉協議会に対する個別訪問などをとおして、諸課題の把握及び解決等に向けた方策の検討、その取り組みが円滑かつ効果的に推進できるよう支援を実施した。

①　市町村社会福祉協議会が抱える課題の抽出及び検討
　ア　９市村社会福祉協議会との個別の情報共有・意見交換の実施
　イ　市町村社会福祉協議会への個別支援等の実施
②　地域共生社会実現に向けた関係機関・団体との連携の場づくり
　ア　地域共生社会実現に向けた取り組み
　　㈠　市町村社協情報共有オンライン会議開催
　　㈡　重層的支援体制整備事業移行準備事業実施市村社協ミーティング開催
　　㈢　地域共生社会実現に向けた「重層的支援体制整備事業」学習会開催
　イ　プラットフォームづくりの推進
　　㈠　災害時福祉支援活動推進
　　㈡　新潟県福祉教育推進会議の開催
　　㈢　ひきこもり支援をテーマにした市町村社協担当職員による緩やかなネットワーク会議開催
　ウ　新たな社会課題の解決に向けた具体的取り組み
　　㈠　ひきこもり支援従事者向け研修会の開催
　　㈡　ひきこもり者への支援推進フォーラムの開催
　　㈢　地域の居場所創出支援

⑵　自立生活を支えるための包括的な総合相談・生活支援体制づくりの推進

高齢・障がい・子ども・生活困窮など各専門支援機関との連携の促進や「暮らし」全般に及ぶ伴走型支援に向けた多機関協働の中核的な役割を果たす機能が必要とされている。

「暮らし」を支える幅広い知識やスキルを身につけ、各専門的な支援機関等と連携協働して、住民を支援できる能力を有する人材を育成することや各専門的な支援機関や他職種の人々が円滑に連携協働できる広域的なプラットフォームの構築を支援していくことを目的に研修会等を開催した。

①　生活福祉資金貸付事業担当者等連絡会議（兼生活困窮者自立支援担当者研修）２回

⑶　地域における権利擁護体制の推進

市町村社会福祉協議会の、地域における権利擁護体制の構築や権利擁護事業の実施や拡充に向けた支援を行うとともに、市町村における成年後見制度利用促進体制の整備や強化を図るための各種事業を実施した。

①　権利擁護人材養成モデル事業の実施
②　地域における権利擁護体制の推進検討委員会の開催　１回
③　成年後見制度担当者研修会の開催　１回
④　成年後見制度訪問検討会、体制整備支援等アドバイザー派遣の実施
　・対象10市町村　・アドバイザー等派遣回数延べ39回
⑤　法人後見訪問検討会の開催
　・対象６市町村　・アドバイザー等派遣回数延べ12回
⑥　中核機関ネットワーク会議の開催　２会場
⑦　法人後見スタートアップ研修会の開催　１回
⑧　社会福祉法人による法人後見団体ネットワーク会議の開催　１回
⑨　市町村長申立推進研修会（基礎編）の開催　１回
⑩　市町村長申立推進研修会（応用編）の開催　１回

⑷　福祉職の魅力についての啓発の推進

①　福祉現場で働く職員・事業所へのインタビュー動画の周知
②　福祉施設の職場体験事業の実施
　ア　介護施設の職場体験
　　・体験者98名／延べ体験日数128日
　イ　親子向けの介護体験会
　　・８月20日　長岡介護福祉専門学校あゆみ　６組13名
　　・８月26日　国際こども・福祉カレッジ　14組28名
③　福祉人材センター職員による職場体験レポートの実施
　体験者のアンケート結果をもとに、「体験者レポート（体験者の声）」を作成しホームページ等で公開した。
④　インスタグラムによる職員・利用者の写真公開
　インスタグラムに限定せず他のSNSなど、より効果的に情報発信できるツール・媒体を検討し発信した。

福祉人材センターホームページブログ14回／LINE友だち登録数757名（R６.３月末現在）

⑤　関係団体・法人等との連携事業の実施

各種イベントの周知にあたり、関係機関（県、ハローワーク等）と連携した。

2　基本方針別の事業実施概要

⑴　みんなで育む福祉のまちづくり

①　県民の福祉への理解促進と福祉の心の醸成

ア　第73回新潟県民福祉大会の開催

10月19日　上越市　参加者約750名

イ　福祉・介護・健康フェアの開催

・新潟会場　11月25日　来場者2,513名

・長岡会場　10月29日　来場者2,000名

・上越会場　11月12日　来場者806名

上越市で第 73 回
「新潟県民福祉大会」

②　地域福祉活動の推進・市町村社協活動支援

ア　市町村社協会長研修の開催　１回

イ　市町村社協職員課題別研修の開催

㈠　社協新任及び初級職員研修会　１回

㈡　課題別研修　３回

にぎわう「福祉・介護・健康フェア」
in 新潟

③　地域共生社会実現に向けた基盤構築の推進

ア　市町村社会福祉協議会が抱える課題の抽出及び検討

㈠　市町村社会福祉協議会への個別訪問調査の実施　９カ所

㈡　市町村社会福祉協議会への個別支援の実施　３カ所

イ　地域共生社会の実現に向けた関係機関・団体との連携の場づくり

㈠　地域共生社会実現に向けた取り組み

・地域共生社会の実現に向けた検討チームの開催　４回

・市町村社協情報共有オンライン会議の開催　１回

・地域共生社会実現に向けた「重層的支援体制整備事業」学習会の開催　１回

・重層的支援体制整備事業移行準備事業実施市村社協ミーティングの開催　１回

㈡　市町村間のプラットフォームづくりの推進

・災害時福祉支援活動推進に係る会議、研修等の開催　９回

・新潟県福祉教育推進会議の開催　２回

・ひきこもり支援をテーマにしたネットワーク会議の開催　１回

㈢　新たな社会課題の解決に向けた具体的取組

・ひきこもり支援従事者向け研修会の開催　１回

・ひきこもり者への支援推進フォーラムの開催　１回

・地域の居場所創出支援に係る調査の実施

能登半島地震で新潟市西区社協が
災害ボランティアセンター設置

④　ボランティア活動・社会貢献活動の振興

ア　災害救援活動の推進

㈠　災害支援コーディネーター養成研修「初級編」の開催

（中級、上級編現場実践プレコースは能登半島地震の影響により中止）

㈡　令和６年能登半島地震における被災地支援活動の実施

・新潟市西区災害ボランティアセンター　１月２～18日／延べ30名派遣

・中能登町災害ボランティアセンター　３月３～31日／延べ38名派遣

イ　福祉教育の推進

㈠　福祉教育推進セミナーの開催　２回

ウ　県民たすけあい基金運用益助成事業の実施

・36団体／13,097,000円

⑤　関係機関・団体との連携・支援の推進

ア　福祉関係団体との連携・協働を基盤とした政策提言、予算要望活動の実施

・福祉団体共同による県知事及び県福祉保健部長に対する要望活動

イ　災害福祉広域支援ネットワーク事業の推進

・災害福祉支援チーム員スキルアップ研修の開催　１回

ウ　第29回日本福祉教育・ボランティア学習学会新潟大会の開催

・令和５年11月４～５日　実行委員会参画、分科会企画運営

・課題別研究Ｂ「福祉教育はなぜ必要か～それぞれの立場から考える福祉教育～」

⑵　一人ひとりの自立生活づくり

①　高齢者の社会参加の促進

ア　ねんりんピック

㈠　第28回にいがたねんりんピックの開催　13種目

（８ページへ続く）

（7ページから続く）

(イ)　第35回全国健康福祉祭えひめ大会への選手派遣（ねんりんピック愛顔のえひめ2023）
・10月28～31日　愛媛県　106名派遣

イ　シニアカレッジ新潟
(ア)　基礎応用課程講座の開催
・１年次　４クラス／全12日間　・２年次　４クラス／全14日間

ねんりんピック愛媛大会の
新潟県選手団

②　高齢者の生活支援の充実
ア　認知症コールセンターの運営
・相談者407名／相談延べ件数1,234件

③　障害者の社会参加の促進
ア　福祉の店パレット新潟店の運営
(ア)　農福連携マルシェ新潟・長岡・上越開催（福祉・介護・健康フェア2023内で開催）
(イ)　授産事業活性化
(ウ)　自主製品の開発支援
イ　障害者就労支援事業の展開
・募金型自動販売機の制作・設置　25台　・寄附金の受け入れ　１社
・パートナー企業　39社・団体
・障害者就労支援事業所製品を企業のお中元・お歳暮として活用
・障害者福祉施設カレーグランプリの開催　10施設11種（福祉・介護・健康フェア2023　内で開催）

④　生活の安定への支援
ア　生活福祉資金等貸付事業
・貸付件数：161件／貸付額：29,905,870円
イ　ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業
・貸付件数：７件／貸付額：1,470,000円
ウ　児童養護施設退所者等に対する自立支援資金事業
・貸付件数：22件／貸付額：10,027,040円

「シニアカレッジ新潟」での
講義のひとこま

⑤　自立生活を支えるための包括的な総合相談・生活支援体制づくりの推進
ア　生活福祉資金貸付事業担当者等連絡会議（兼生活困窮者自立支援担当者研修）の開催
・第１回　６月８日／参加者36名　・第２回　３月27日／参加者37名

⑥　生活支援相談員設置事業
ア　新潟県生活支援相談員の配置
・村上市社協　１名常駐　・関川村社協　１名常駐

(3)　利用者主体の福祉サービスづくり

①　日常生活自立支援事業の実施
ア　契約締結審査会の設置運営
イ　業務監督実地指導の実施　15市町村社協（訪問・Web）
ウ　担当部課長会議の開催　１回
エ　専門員ミーティングの開催　１回
オ　専門員研修会の開催　２回
カ　生活支援員研修会の開催　１回
キ　人材育成推進ワーキング・チームの開催　５回

②　福祉サービス利用者の苦情解決支援の充実
ア　福祉サービス運営適正化委員会の開催
(ア)　委員会　２回
(イ)　利用援助事業調査小委員会　４回
(ウ)　苦情解決小委員会　４回（苦情受付実績18件）
イ　福祉サービスに関する苦情解決研修会の開催
(ア)　苦情受付担当者等研修会　１回
(イ)　苦情解決責任者等研修会　１回

(4)　福祉を支えるひとづくり

①　福祉従事者の確保・就労の促進と働きやすい職場づくりへの支援
ア　福祉人材センター事業の運営
(ア)　福祉人材無料紹介所での求人求職相談、斡旋
・相談件数6,458件　採用158名
(イ)　福祉のしごと就職フェアの開催　＝次ページに写真＝
対面による就職フェアを６回開催
・参加法人150法人／来場者327名
(ウ)　人材確保のための法人向けセミナーの開催
オンライン形式で開催
・参加法人数78法人／参加者101名

イ　介護福祉士等修学資金貸付事業の実施
㈠　介護福祉士・社会福祉士修学資金　貸付件数：618件／貸付額：213,510,000円
㈡　介護福祉士実務研修受講資金　貸付件数：112件／貸付額：18,820,000円
㈢　離職介護人材再就職準備金　貸付件数：３件／貸付額：1,200,000円
ウ　保育士修学資金貸付等事業の実施
㈠　保育士修学資金　貸付件数：146件／貸付額：58,930,000円
㈡　潜在保育士再就職準備金　貸付件数：６件／貸付額：1,200,000円

新潟市での
「福祉のしごと就職フェア」

②　介護の理解促進と知識・技術の普及・促進、介護分野への参入促進
ア　介護実技動画のインターネットを活用した普及・ＰＲ
令和２年度に制作した介護実技等の動画６本と講座のダイジェスト版９本を、引き続き新潟県社会福祉協議会のYouTubeチャンネルで無料公開した。
・３月31日現在のチャンネル登録者4,960名、動画15本の合計閲覧数64万回
イ　動画を活用した県民介護知識・技術習得講座の開催
上記アの制作動画を実技で活用し、介護知識技術の普及に努めた。
㈠　介護技術・基本コース　４回
㈡　介護技術・ステップアップコース　１回
㈢　介護体験・入門コース　17回

⑸　法人運営機能の強化
①　総合企画部会の開催　１回
②　職員の育成・組織力向上の取組
組織力向上研修、社協職員研修、実践研修などを実施
③　新潟ユニゾンプラザの管理運営
④　新潟県社会福祉協議会事業継続計画（BCP）の評価・改善の取り組み

赤い羽根情報

助成受け高齢者宅訪問
中学生メッセージ反響「うれしい」と返信多く

ありがとうメッセージ

妙高市社協から

妙高市共同募金委員会の「赤い羽根共同募金助成」を受けた妙高市社会福祉協議会から「ありがとうメッセージ」が届きました。ご紹介します。

妙高市社会福祉協議会は歳末たすけあいの助成を受け、令和５年度、高齢者の見守り活動「あったかネットワーク事業」の一環として、１人暮らしなどの高齢者へ歳末訪問を実施。民生委員らが高齢者に社協オリジナルカレンダーを配布しました。

カレンダーには新井中学校の生徒の皆さんが寄せたメッセージが１枚ずつ添えられました。中学生のメッセージは高齢者を励ます内容のほか、自身の学校生活の報告などでした。

生徒のメッセージを読んだという高齢者や、配付しながら読んだ民生委員などが喜び「返信カード」がたくさん、届きました。

カードには「毎年とても楽しみにしています」「勉強や部活を頑張ってね」「あいさつをしてくれてうれしい」「元気をありがとう」などと書かれていました。

中には、自分の気持ちを伝えたくて民生委員・児童委員などに代筆をお願いした人もいたそうです。

返信カードは１枚の模造紙に貼られ、２月９日、妙高市民生委員児童委員協議会の片所昭夫会長から新井中学校生徒会役員へ手渡されました。

生徒会役員は、早速メッセージに目を通し「廊下へ展示したり、校内放送を通じて全校に伝えたり、自分たちも活動をつないでいきたい」と、こちらも励みになった様子でした。

高齢者から新井中生徒に寄せられたメッセージカードをまとめて貼った模造紙が新井中生徒会代表に贈られた

福祉のしごと
就職フェア

長岡会場活気40人 上越は10法人がブース

福祉関係の求職者が求人事業所と直接、対面する「福祉のしごと就職フェアin長岡」（県と県福祉人材センター主催）が6月9日、長岡市のハイブ長岡で開かれました。

「就職フェア」には社会福祉法人やNPO法人、株式会社など、中越地域の24法人が参加しました。求職者側は、来春卒業予定の大学生や専門学校生、一般の就職希望者など約40人が訪れました。

参加者のうち、来春、福祉系の大学を卒業予定という女性は「介護の仕事がしたい。話は聞けたので、次は職場見学したい」と話しました。

また、福祉関係で働いてみたいという一般求職者も相次ぎ、訪れました。

人手不足が懸念されている事業所側は「資格なしOK」「経験なしOK」などとアピール。さらにはブースを訪れた求職者に年間休日数やボーナス実績など、働きやすさやメリットなども訴えていました。

一方、6月29日には上越市の市民プラザで「就職フェアin上越」が開かれ、上越地域の10事業所がブースを構え、求職者の質問に答えていました。

「福祉のしごと就職フェアin長岡」から（上下とも）

新潟市
民間実行委主催
新潟福祉機器展

車いすなどより便利に快適に

民間の実行委員会が主催する第17回「新潟福祉機器展」が6月1日、新潟市中央区の新潟市産業振興センターで開かれ、大勢の来場者でにぎわいました。

展示会は感染禍による中止などが続いた後、昨年、復活。例年は土日などの複数日程でしたが、今年は経費節減などのため1日だけの開催となりました。

会場にはメーカーやレンタル、販売など、約40企業が出展。電動など、さまざまな車いすをはじめ、歩行介助機器、福祉車両、介護ベッド、手すりや介護に利便性の高い住宅など、最新の機器や情報を紹介していました。

会場には車いす利用者とその家族、病院や施設関係者などが多く訪れ、説明を受けていました。

福祉関係の大学生も来場。「福祉機器は教科書で見ていたけど、実物を見るとより身近に感じられ、勉強になる」と話しました。

新潟福祉機器展の実行委員長は車いす販売・メンテナンスの株式会社G・T・B（新潟市秋葉区）の鈴木純也社長です。東京での国際福祉機器展のように、新潟でも最新福祉機器に触れられるよう、福祉関係企業などで実行委をつくり、機器展を主催しています。

1日だけの開催となった「新潟福祉機器展」（上下とも）

No.63
福祉の現場
—福祉の現場で働く人たちに思いを聞きました—

玉橋（たまはし） 尚和（なおかず） さん
NPO法人フードバンクつばめ
活動拠点
「つばめベース」所長

つばめベース
月曜定休
〒959-1258
燕市仲町3-10-1
☎0256-46-8805

高級官僚辞め地元密着へ

「ありがとう」—。子どもの明るい声に頬が緩む。

NPO法人・フードバンクつばめが燕市の中心商店街に構える活動拠点「つばめベース」は子どもの居場所・遊び場でもあり、週末は訪れる子どもが多い。所長として全体に目配りする一方、施設内にある駄菓子販売所のレジで、子どもの買い物にも応じる。

「これまでは仕事で子どもに接することがなかったから、とても楽しい」

つばめベースは、フードバンクつばめが発足した2年後の2023年11月にオープンした。その1カ月半前、フードバンクへ転職して所長に就任。目前に迫った開業と、そのセレモニーを取り仕切った。

「つばめベース」での無料塾で子どもたちに勉強を教える玉橋さん㊨

前職は国家公務員、総務省のキャリア官僚。高卒後から現在までの歩みは、珍しい経歴の紹介が人気のテレビ番組に出演できそうなほど「激レアさん」だ。

新潟市で生まれた。親の仕事の都合で小3から家族で柏崎市へ移った。「高校は進学校でもないし、受験勉強もしていなかった」と進学にこだわらなかった。

「中3の時、中越沖地震が起こり、災害出動の自衛隊員を見て、人の役に立つ仕事が胸に刺さった。戦闘機パイロットへのあこがれもあった」と、航空自衛隊を志願。20倍ほどの試験をパスしたものの、入隊前のパイロット養成試験の視力検査を通過できず、管制業務に就いた。

「隊内では班ごとの集団生活で、同僚には難関大卒業生もいた。一緒に寮生活するうち、自分も大学で学んでみたくなった」

ほどなく、試験科目の少ない私立大学を目標に、寮で受験勉強を始めた。

難関大卒業の同僚から勉強を教えてもらった。自衛隊の寮生活は就寝も起床も規則があり、勉強時間は自由にならない。「夜中、常夜灯のあるトイレで英単語を覚えた。夏場の朝、ふとんをかぶりながら差し込む朝日で参考書を読んだ」

入隊翌年の夏に除隊。新潟市の予備校へ通うため柏崎には戻らず、祖父母が住む燕市の家に身を寄せた。冬を越えて迎えた受験では私大最難関双璧の慶応義塾大学法学部に合格。その後は京都大学大学院でも学び、総務官僚となった。

総務省では兵庫県庁に出向。新型コロナウイルスのワクチン接種対応で殺人的な忙しさだった。本省に戻ってからも国会対応などで激務の日々だったという。

「総務省の仕事は国民や住民の顔が見えないのが不満だった。フードバンクつばめの理事長に『来ないか』と誘われ、地域密着の仕事に魅力を感じた。社会に必要な活動で、構想も大きくて心が動きました」

一方で、今年4月から福島県磐梯町に請われ、町政アドバイザーの仕事も担い始めた。「磐梯町に週に2日ほど通う。その分、燕での勤務日数は減る」

しかし、つばめベースと通う子どもたちへの思いは今なお強い。

「子どもたちが成長し、いつか、パートナーや、その子どもを連れて来て紹介してくれたらうれしい」

つばめベースの先行きも、子どもたちの将来も見つめ続けたい—。そんな思いをにじませていた。

新潟　表現イベント「未来地図」

障害当事者ら 熱唱熱演

立ち寄る市民「楽しかった」

障害や生きづらさのある人たちの表現イベント「未来地図2024」が5月26日、新潟市中央区の市歴史博物館構内、旧第四銀行住吉町支店で開かれました。障害などの当事者グループでつくる「未来地図プロジェクト」の主催。

イベントは、メンバーからステージ出演を励みにしてもらう一方、来場した市民からは障害などへの理解を深めてもらう狙いです。今年は「山六笑店」「ほほえみの木」などの4グループ1個人が歌や演奏、漫談などを披露。約60人が客席を埋めました。

イベントは、出演者が障害や生きづらさなどを包み隠さずオープンに語るのが特徴です。

「発達障害でコミュニケーションが苦手。音楽は少しできるので歌いたい」「いじめられて心を閉ざしたこともあったが、成長できるよう頑張る」などとコメントして熱演、温かい拍手が起こりました。

イベントのテーマ曲「未来地図」を出演者と客席の全員で合唱しました。

立ち寄った市民は「皆さん一生懸命でいいイベント」「音楽を楽しめた」と満足そう。主催者共同代表の中村優美さん（ほほえみの木）は「楽しんでもらえてうれしい」と話しました。

障害や生きづらさのある仲間らが熱演した「未来地図2024」

福祉の店 パレット情報

パレット新潟店営業日

2024年 7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2024年 8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

営業時間 11:30～16:30　…は休業日

編集後記

「こんにちは」と、あいさつを返してくれた少女の、はにかんだ顔が愛らしかった。柏崎市の福祉事業所で取材中、事業所を開設した両親の長女が特別支援学校高等部から戻って来た。すぐ、あいさつさせてもらった。

7歳で希少難病と診断された長女を思い、IT関連会社を営む両親が開設した福祉事業所。ITやアクセサリーなどの業務を採り入れ「新しい福祉の形」を目指していた。

「わが娘のため」がきっかけとはいえ、その試みは福祉事業所の関係者には斬新だったに違いない。利用者は20代が大半というのも珍しいのでは。視察が多く、日程が立て込む中、急な取材のお願いにもかかわらず無理を聞いてもらった。

夫妻の試みは福祉事業所が抱かれがちな概念を覆し、どんな世界を築いていくのだろうか。柏崎から巻き起こった「福祉の新風」に期待したい。（佐）

この機関誌は、赤い羽根共同募金の助成を受け発行しています。

発行所／社会福祉法人　新潟県社会福祉協議会
新潟市中央区上所2－2－2ユニゾンプラザ
☎ 025－281－5584
発行人／関原　貢
定　価／5円（会員の購読料は会費に含む）

福祉にいがた
令和6年7月1日発行（毎月1日発行）
印刷／島津印刷㈱